

2021. Jun.  
Reboot 1



アクセスページ

# 暮らりネット ClariNet

特集

## 2021年新人入職者ご紹介！ 先生たちからのメッセージ



医療法人 徳洲会 古河総合病院

〒306-0041 茨城県古河市鴻巣1555番地 TEL 0280-47-1010 (代表)

<https://www.kogahosp.jp/>



# 広報誌を

# リニューアル

# しました！

福江眞隆（院長）

「暮らしネット」には

徳洲会の理念をもとに

当院を利用してくださる

皆さんの暮らしを

ネットワークで繋ごう

という意味が込められています



この度は広報誌「暮らしネット」を手にとっていただきありがとうございます。

この「暮らしネット」というネーミングには、徳洲会の理念である『生命を安心して預けられる病院 健康と生活を守る病院』から、当院を利用してくださる皆さんの暮らしをネットワークで繋ごうという意味が込められております。

本年度から新しくリニューアルを致しまして、今後は当院で働く医師、看護師、職員たちのプロフィール紹介や、当院独自の取り組みほか様々な活動について発信していく予定です。ぜひ多くの方々に手に取っていただき、楽しんで読んでいただけたらと思います。

## ご挨拶

さて、今年度の話題はなんといっても3名の新しい医師が就職してくれたことです。循環器科の小笠原先生、総合診療科の中川先生、そして近日中の開設を予定している耳鼻咽喉科の星田先生です。特に耳鼻科は当院待望の診療科であり、初めての開設となります。現在は開設準備が遅れていて申し訳ありませんが、皆様に満足していただける診療科と成るよう、着々と準備を進めておりますので、もう少しの間だけご辛抱いただけたらと思います。

また、4月就職の新人は、看護師16名、臨床検査技師3名、臨床工学技士1名、理学療法士3名、診療情報管理士1名、管理

栄養士1名、事務職員5名、介護士1名の合計32名となりました。フレッシュな若手職員たちの今後の活躍が非常に楽しみであり、皆さまにも温かく見守っていただけましたら幸いです。

昨年度はコロナ禍に始まり、コロナ禍に終わるといった大変な年でした。まだ完全には収まっていませんが、当院でも4月から職員のワクチン接種を開始することが出来ております。院内発生を防ぎつつ、軽症・中等症の感染者の入院治療も行っている状況です。

一日でも早くコロナが治まることを願っており、当院でも病院祭や忘年会、新年会、職員歓迎会、職員旅行なども復活できればと思っております。アットホームで朗らかなのが当院のモットーです。そして、いつも笑顔で、辛い思いの患者さんの気持ちに寄り添って診療を行って参ります。発展し続ける当院を今年度もよろしく願います。

## 福江 眞隆 院長

1986年 筑波大学医学専門学群卒業、1986年 筑波大学附属病院勤務、  
1991-1993年 米国カリフォルニア大学サンフランシスコ校 (UCSF) 心臓血管研究所 (CVRI) 留学、1993年 筑波記念病院外科部長、2001年 龍ヶ崎済生会病院外科部長、2004年 庄内余目病院副院長、2005年4月三和記念病院副院長、2005年7月 古河総合病院院長就任  
<専門> 日本外科学会、胸部外科認定医、消化器外科認定医、外科専門医、臨床腫瘍学会、米国生理学会

## 入職式の風景

令和3年度 入職式

2021年4月1日(木)、新入職員の入職式を執り行いました。今年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、出席者は全員マスク着用や研修日程の短縮など、例年とは少し異なる雰囲気の中で行われました。今年は計32名の新入職員の入職があり、明るく個性豊かな職員が揃っています。入職式では皆が院長の言葉に真剣に耳を傾けていました。入職式後はいくつかオリエンテーションを行い、毎年恒例の記念撮影を行いました。フレッシュでやる気に満ち溢れた新入職員を見ていると、既存の職員も身の引き締まる思いでした。既に現場入りを果たしている新入職員たちですが、患者様の生活をしっかりとサポートできるよう精進してまいりますので、どうぞよろしく願います。





常に患者様一人ひとりの考え方や病気の内容、背景等に合わせてベストな対応を行うことを心掛けております

## 小笠原大介（循環器科・下肢血管科）

循環器内科の小笠原と申します。循環器内科は主には心臓の病気を取り扱う診療科です。時に命に関わる救急疾患に対処する必要がありますため、ステレオタイプの対応ではなく、常に患者様一人ひとりの考え方や病気の内容、背景等に合わせてベストな対応を行うことを心掛けております。

当診療科の特徴としては、狭心症や心筋梗塞に対する救急治療が行えること、不整脈や心筋症といったあらゆる循環器疾患に対応できることが挙げられます。また、血管病というのは全身に起こる可能性があり、特に足の血管病である下肢閉塞性動脈硬化症（足の血管の動脈硬化）に対する治

療と、足の血管がポコポコに腫れあがる下肢静脈瘤という病気に対する、体に負担の少ない高周波治療を行う専門技術も有しております。

あらゆる足の血管病に対応ができることから、新たに下肢血管外来という診療科も開設しますので、呼吸が苦しい・胸が痛いという方、足が痛い・冷たい・むくむ・こぼこ腫れて悩んでいるという方は、いつでもご相談いただければと思います。

これからも私自身の専門性を活かして、古河地区の地域医療に貢献していきたいと思っております。



### 小笠原大介 循環器科

2000年 神戸大学医学部卒業、2004年 神戸大学病院 循環器内科 カテーテルグループ所属（主に阪神間の病院勤務に従事）、2019年～ 東京都の病院で勤務  
<専門> 医学博士、日本内科学会 総合内科専門医、日本循環器学会 循環器専門医、日本心血管インターベンション治療学会 CVIT認定医・専門医、日本脈管学会 脈管専門医、下肢静脈瘤血管内焼灼術 実施医・指導医

## 2021年新人入職者ご紹介

### 細田あいか

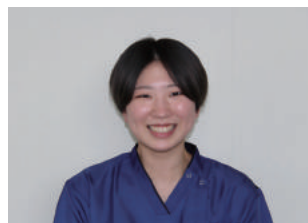
事務員  
医事課



医療はサービス業であり、自分の評価は病院全体の評価につながることを、病院に来られる方は皆さん不安があることを働く上で忘れず、わからないことがあったら、自分で判断するのではなく、先輩方に聞いて積極的に行動していきます。一日でも早く業務に慣れるよう、これからも頑張っていきます。

### 折原あやの

理学療法士



徳洲会グループの理念“生命だけは平等だ”という言葉はとても大切なことであり、医療従事者として絶対に忘れてはなりません。これから古河総合病院の一員として、患者様への態度やコミュニケーション方法など先輩方からしっかりと学び、患者様に最善を尽くせる理学療法士になりたいと思います。

### 渋谷莉那

看護師



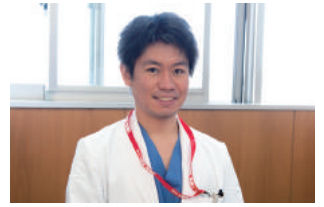
小学6年生の時に、自分よりも幼い子が世界でたくさん亡くなっていることを知りました。生まれた地域によって治療や支援の格差が生まれていることに疑問を持ち、少しでも力になりたいという思いで看護師を目指しました。その経験と徳洲会グループの理念がとてもよく似ていたため、ここで頑張っていきたいと強く思っております。

### 関口海輝

臨床検査技師



新社会人となり、臨床検査技師として働き始めて2か月が経ちました。新しい環境でまだわからないことも多いのですが、その分学べることがたくさんあると思っています。先輩方のご指導のもと、一日でも早く一人前になれるよう努力していきたいと思っています。よろしくお願いたします。



中川知彦 内科

2015年 慶應義塾大学医学部卒業、済生会宇都宮病院 初期臨床研修、2017年 太田記念病院、2018年 慶應義塾大学病院、2019年 足利赤十字病院、2020年 済生会宇都宮病院  
<専門> 日本外科学会外科専門医

今年度から内科医として新しく入職しました中川と申します。診療科としては、新しく一般内科・総合診療科として私を含めた2名体制となりまして、これまで以上に多くの患者様を診察できるようになりました。全身の幅広い臓器を横断的に診察する「なんでも屋さん」として、ご年齢、背景、疾患に関わらず幅広く患者様を受け入れることができればと思っております。

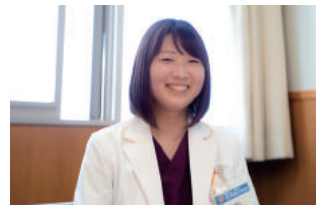
また、特に近年の高齢化社会によって、複数の疾患を同時に抱えていらっしゃる患者様も多いので、そのような方々にも総合的な診察を行い、最適な治療ができるような医療を目指しています。

様々な疾患がある中で、自分がどういう病気にかかっているのか？これからどうなってしまうのか？不安に思われる方も多いかと思いますが、我々としてはその不安を少しでも取り除けるように努力していくつもりです。さらに言えば、患者様と我々医療者の垣根というか、壁みたいなものができるだけ取り払うような姿勢で医療提供をしていきたいと考えておりますので、どんなささいなことでも、ぜひお気軽にご相談いただけたらと思います。

### 横断的に診察する「なんでも屋さん」として

健診センターの高橋と申します。健康診断や人間ドックは、半年もしくは1年に1回だけ受診するという方がほとんどだと思います。そのため当健診センターでは、少ない回数の中でいかに健康状態や生活習慣を振り返ってもらうかを意識し、なるべく具体的なアドバイスを行い、前回の健診時から変化したことを指摘するようにしております。

また、総合病院の中で行う健診ということもあり、例えば採血に異常がある場合や、患者様ご自身から自覚症状の訴えがある場合には、そのまま外来に繋げて診察を受けて頂くことができます。さらに、お仕事を日中に来院できない方のために、会社や工場等へ直接訪問させていただく巡回健診も行っておりますので、ご興味がある方やそれを希望される方は、お気軽にご相談いただけます。コロナの流行によって、ご自身の体調の変化や健康状態を意識することが増えたかと思しますので、この機会にぜひ健康診断を受けて頂けたらと思います。



高橋清楓 健診センター

2018年 秋田大学医学部卒業、2018年 国際医療福祉大学病院 研修医、2020年 獨協医科大学病院 麻酔科

### いかに健康状態や生活習慣を振り返ってもらうか

この度、新しく開設する耳鼻咽喉科の星田と申します。耳鼻科で扱う領域は体の入り口、つまり外界と体内の接点ですので、体の外に原因がある不調が起こりやすい分野です。そのため、体の中の病気を見るだけではなく、生活環境や生活習慣など、患者様の周囲を広くとらえることが大切だと考えています。また、耳鼻科は五感のうち四感を扱う感覚器外科でもあります。感覚器の障害はコミュニケーションや生活の質の障害につながりやすく、うまく折り合いをつけるのに苦労することがあります。薬や手術のような直接的な治療よりも、環境調整や生活指導が重要になることも多いです。さらに、感覚器障害は障害者福祉の対象となるものも多いですが、支援を得るための手続きは複雑です。当診療科では、そのようなことを含めたトータルサポートが充実できるように心がけています。

近年のトピックスとして、多くの慢性疾患が全身の慢性炎症から発症しており、鼻の奥にある上咽頭がその主要な原因病巣の一つであることがわかってきました。慢性上咽頭炎に対する上咽頭擦過療法を行えるようにも準備をしています。



星田茂 耳鼻咽喉科

2000年 金沢大学医学部医学科卒業、2000年 金沢大学医学部附属病院 医局、2012年 芳珠記念病院、2015年 十全記念病院、2018年 下呂温泉病院  
<専門> 日本耳鼻咽喉科学会専門医、めまい相談医、補聴器相談医、補聴器適合判定医、騒音性難聴担当医、音声言語機能等判定医、身体障害者福祉法第15条指定医

また、アレルギー性鼻炎は2人に1人になるもはや国民病とも言えるものです。特にスギ花粉症は飛散期が受験や就職などの時期と重なり重症者には大きなハンディとなります。また妊娠中は粘膜が充血し鼻炎症状が重症化しやすいですが、胎児への影響から薬が使いにくく治療が大変困難になります。そのような人生の転機を迎える前に備えておくことは有用なことだと思います。体質改善をする免疫療法は治療に3〜5年間と長い時間を要しますが、寛解すれば薬に過ごすことができるようになります。夕診の枠で未成年を対象とした舌下免疫療法外来を設置予定ですので、学校帰りに利用していただければと思います。

### 患者様の周囲を広くとらえることが大切